

7月10日、投票された参院選。日本共産党は比例代表で、繰進した前回2013年の515万票を上回る601万票を得て5議席を獲得。東京選挙区で藤野を回復し、改選3議席から6議席へと前進しました。

野党共闘はじまる

今回の選挙は、安倍内閣の戦争する国づくりに反対する市民の共同が広がり、全国的に野党共闘が実現する歴史的な選挙となりました。奈良選挙区では民進党の前川清成氏が統一候補として選挙しました。

日本共産党が前進

参院選

野党統一候補は1人区(32カ所)で11勝という結果で、沖縄と福島では統一候補が選挙区に勝利しました。野党候補がわずかに2勝にとどまった前回2013年と比べ、開始された野党共闘が確実に成果を上げたと言えます。

選挙の結果、改革勢力が憲法改正の国民投票実施に必要な3分の2議席を獲得しましたが、自公政権は憲法問題を争点から離すことに終始し、「国憲は改革へ」「自派責任」を叫びたわけではありませぬ。

前進した日本共産党議員と、開始された野党共闘を力に、暴走政治を食い止め、立憲主義の回復、格差拡大のメカニズム政策の転換をめざし、頑張る決意です。

1人区の野党統一候補前回2勝→今回1勝 / 日本共産党比例得票前回515万票→601万票 / 日本共産党の議席改選3議席→6議席

代表質問 小林 照代議員



国保料引き下げのための市町村の取り組みに県が支援を

「国民健康保険の保険料が高すぎて支払えない」と悲鳴が上がっている。未納などで受診できずに命を落とす事例が各地で起きている。制度発足時には80%だった国庫支出が現在は28%に減らされ、さらに政府は2018年度から運営主体を市町村から都道府県に移行させる方針です。小林照代議員は代表質問で、「県単位化」後も、市町村が行っている保険料減免施策を「統一」してしまおうとのな

暮らしと安全を守る県政へ

6月定例県議会 切実な県民要求を掲げ論戦

子どもが家に帰っても誰もおらず、一人で食事をとり一人で過ごす…。「子どもの貧困」が社会問題になる中、子どもに無料で食事を提供し居場所をつくるという「子ども食堂」とよばれる活動が斑鳩町、生駒市、天理市、橿原市、三宅町、上牧町などに広がっています。宮本次郎議員は一般質問で、実際に「子ども食堂」に取り組みで

県下に広がる「子ども食堂」の取り組みに県の支援を

一般質問 宮本 次郎議員



日本共産党 奈良県議会だより 2016年8月 NO.96

630-8501 奈良市登大町30 奈良県議会内
TEL 0742(27)5291 Fax 0742(27)1492
Eメール naraken-jcp@forest.ocn.ne.jp

- 日本共産党奈良県議員団
県会議長 山村さち子
県議員 伊井 光子
県議員 宮本 次郎
県議員 小林てるよ
県議員 太田あつし

●6月定例県議会 おもな議題●
今議会で大きな議案となった、県営プール跡地への「ホテルを核とした賑わいと交流の拠点整備事業」は、立地するホテルの周辺に、コンベンション施設、多目的広場、パスターミナルなどの施設を設計・建設し、維持管理・運営をあわせて220億円を委託契約するものです。国際高級ホテル建設の土台となるまちづくりに巨額をつぎ込むことは、大企業へのお手盛りとの批判を免れず、県民生活の実感からかけ離れたものです。また大規模なプロジェクトでありながら入札はわずか1社しかなく、競争原理や公平性という観点から問題があり、日本共産党は反対しました。
このほか、小規模民泊施設に対しフロント設置を義務づけられないなど旅館業法の規制緩和や、投機目的の貸し付けで返済が滞った3500万円の権利放棄など、19議案中9議案に反対しました。

奈良市般若寺町の奈良少年刑務所(1908年・明治41年建設)は、国が監獄の近代化をめざして建てた「五大監獄」(奈良、千葉、東京、鹿児島、金沢)のうち現存する唯一の施設ですが、老朽化による建て替えが検討されています。同建造物は洋風の豪華な造りが特徴で、使用されたレンガはすべて当時の受刑者が木津川のほとり



意見書提案をする山村幸枝議員

日本近代化の象徴的建物・「五大監獄」で現存する唯一の施設

日本に誇る 奈良少年刑務所 洋風建造物の存続を！



日本共産党提案 意見書を全会一致採択

放射状に配置された倉庫などが特徴で、奈良少年刑務所が毎年9月に実施している「矯正展」には市内外から多くの人々が参加しており、その折に由緒ある建造物へ関心と注目が集まっています。

地元住民を中心に同建造物の文化遺産登録と施設の存続を求める運動が広がる中、日本共産党は5月に法務省・文化庁に申し入れるとともに、同趣旨の意見書を6月議会に提案(提案者は山村幸枝議員・上野真)。意見書は全会一致で採択されました。法務省は同建造物を保存し、集客施設としての活用を検討しています。

脱原発をめざす奈良県議員連盟の有志議員

議会の20名の議員で構成された「脱原発・東北電力・女川原発」の有志議員は、東北電力・女川原発(東日本大震災の震災に巻き込まれた)の実態調査、同原発再稼働に反対する立地30%圏域住民の会との懇談を目的に実施

女川町の立休村にて津波など震災被害の説明を受ける



「津波に耐えた原発」の実態を聞く 宮城県東北電力・女川原発を視察 実際は過酷事故に「紙一重」

東北電力・女川原発は東日本大震災で「津波に耐えた」と安全神話の普及に利用されていますが、実際は真逆で過酷事故に「紙一重」といえるでした。女川町を襲った13級の津波に対して原発施設はあと80センチ「取水口の掘り下げ」など津波対策として地域住民が強く要求していたことが的中していました。また同系統の電源のうち、配電網を通じて海水が浸入し停電、壊れたのは1系統だけだったなど、福島原発と明確を分けてきました。

女川町では今、大規模なかさあげ工事を新しいます。業者も回復し、復旧がすすんでいます。しかし、「過酷事故を食い止めた」とお墨付きになっている「震災後継者」や「被災者」など、さまざまな苦しみがありました。宮城県議会の「脱原発・議員の会」の働きと連携、福島原発事故にともなう水産業被害の損害賠償や放射能に汚染された農産物処理の問題など国民的課題への取組を交流しました。



討論をおこなう
太田 敦徳議員

県営プール跡地にコンベンションセンターなどを220億円の巨額の税金を投じて建設し、それをステップに国際ブランドの高級ホテルを誘致するという手法でまちづくりをおこない、奈良観光に富裕層を呼び込むというプロジェクトの議案に、県民の理解と合意は得られないと指摘して反対しました。



少子化対策・女性の活躍促進特別委員会の委員報告
本日の「いんぱん」井光子議員

子どもの貧困が大きな社会問題になる中で、奈良県で子どもの貧困対策計画を策定するように求めてきましたが、このたび、それが完成しました。『経済的困難及び生活上の困難を抱える子どもを支援する奈良県計画』です。4回の対策会議では今井光子議員が多くの発言と提案をおこないました。

た人が20%。〇続く会議のため備蓄できず関連死者多数など、災害対策の新しい重要な課題を示しています。▼自然災害をよく知り、被災の対策を国政からいかに、自然災害は防いごとの止められなくては被害を最小限に抑えたいという声があります。▼被災者支援の充実、国土強靱化推進計画の策定、事業継続計画の策定など地域計画やビジョンが次々と公表されているものの、災害が発生したときどうするか計画中心、高校など学校や体育館、公園館など公共施設や一般住宅の耐震化をはじめ、居住の地中化、橋梁やトンネルの改修、消防分署への機能転換など「防災」確保を「〇」の具体的な対策と「地域防災力・防災力」の根本的強化は、自治体にはあってもなかなかすすんでいないのが実態です。▼とりわけ、奈良県にとって喫緊の課題である、県広域防災拠点施設の高度化と整備については、自衛隊入り基地の県内誘致待ち、それが「防災」の切り札と見られていますが「〇」としては、1人の犠牲も出さないが、スローガンの奈良県の防災、当面する国連防災計画は何かを推進し、被災者みならず「〇」で「〇」の「被災」の取り扱いは、被災者への「〇」

地域防災力の抜本的強化を